

平成29年度 豊かなむらづくり全国表彰事業 東北ブロック受賞事例の概要

【農林水産大臣賞】

ふるさとの再生 ～日本の里山のモデルを目指して～

受賞団体：「特定非営利活動法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会」（福島県二本松市）

◆むらづくりの背景・経緯

二本松市の旧東和町は、福島県中通り北部の阿武隈山系の山々に囲まれ、狭い谷に沿って集落等が点在する典型的な中山間地域である。

かつては、県内屈指の養蚕地帯であったが、生糸の輸入に押され、生産は激減し、現在は、地域の気候や環境を生かした野菜や米を中心とした農業生産が行われている。

市町村合併や農協の合併が進められた中で、東和地域の農業衰退を危惧した地域の青年農業者の呼びかけにより、個々に活動していた農業者団体、市民団体が統合され、平成17年に「特定非営利活動法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会」が設立した。

◆むらづくりの内容

○農業生産面

畜産農家と連携し、オリジナル堆肥「げんき1号」を開発した。この堆肥を利用して、細かな基準をクリアした野菜を独自認証ブランド「東和げんき野菜」に認定し、道の駅等で販売している。

また、養蚕業衰退後の遊休桑園を解消し、桑を活用した6次化商品の開発に取り組んでいる。さらには、東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故後、より安全な桑商品を開発するため、桑の改植を行い、自ら加工所を設置し、桑の葉パウダーを生産している。

福島第一原子力発電所事故後、野生の山菜は出荷できなくなったため、ワラビの栽培等にも着手している。

○生活・環境整備面

「震災復興プログラム」を作成し、環境、農産物、健康の面について、多くの大学や企業から支援を受けて、放射性物質について測定・公開し、消費者が判断できるようにしている。

また、宿泊希望者への農家民宿の紹介や新規民宿の開設への支援、外国人の研修受入なども行っている。農家民宿は、平成29年3月現在、22軒にまで増えてきている。

新規就農・移住希望者向け説明会に参加し、情報発信に努めている。また、移住者が地域に溶け込めるように営農指導を実施するなど住民全体で地域づくりを進めている。



独自認証ブランド「東和げんき野菜」とそのマーク



上：新規就農希望者への営農指導
下：農家民宿での交流